

第2回有機農業アカデミーカリキュラム検討委員会 発言要旨

1 カリキュラム内容、テキストについて

- ・実際に県内で行われている技術を兵庫県のオリジナルテキストとしてまとめては。
- ・授業に気候変動のことも含めた方が良いのでは。
- ・課題に対して対策を考えられる人を育てるカリキュラムになると良い。
- ・方向性を誘導するのではなく、こんなやり方があると提示し、学生が自分のやり方を選べるような内容が良い。

対応	カリキュラムに反映（資料3、3-2、4）
----	----------------------

2 農家派遣実習の実施方法について

- ・農家には農繁期と農閑期がある。農閑期に1日行ってももったいない。「一定期間」と「毎週1日」両方やり、ポイントとなる所に固めて行くとかすればどうか。
- ・農家実習を農大での基礎実習と確実に分けた方が良い。実習場所が変わるので。
- ・4、5月に、できるだけ早く覚えなさいといけない座学と農家実習を行う。この農家実習で畑準備から播種・定植までを体験でき、その後実習ほ場の太陽熱消毒をきっちり行って実習をスタートする。農作物の栽培は短くなるがその方が良いと感じる。
- ・年度当初の座学は、栽培を始めるために肥料として何をどれだけ入れたらいいかがざっくり分かる内容が必要。

対応	農家実習は両方やり方で実施（資料3-2、4） 最初に必要な授業を詰めて行う。
----	---

3 実習ほ場の管理方法について

- ・感覚的に当番制というのは責任が分散してしまう。自己管理が良い。
- ・農家になったら当番制はできない。

対応	学生ごとの個別管理とする（資料2）
----	-------------------

4 太陽熱養生処理について

- ・夏の太陽熱を利用し太陽熱消毒は、秋・冬に向けてとても大事。
- ・太陽熱のポイントを実習でしっかりと押さえられるのと押さえられないのでは、就農した後も大きく変わってくる。
- ・ビニールの張り方やビニールの種類もいろいろあるし、温度を計ってデータ化するなど、ここを深掘りすると後々役に立つ。データを残して就農後に自分の畑で参考になるような実習になったら良い。
- ・4月だけでも、ハウスを閉めて薄めのビニールをピシッとかけておくと2, 3週間で結構温度が上がる。通常は積算で900度と言われるが、そこまで行かなくても効果はあるので、苗をしっかり作って移植していけば結構いける。
- ・ニンジンは太陽熱消毒が上手くいったかどうかの結果が分かりやすい。

対応	実習計画に反映（資料2、4）
----	----------------

5 実習栽培品目について

- ・アブラナ科は作り難い。冬場はホウレンソウ、果菜類が割と作りやすい。
- ・どのレベルを狙うか。数値的な栄養価なのか、見た目の揃いなのか。
- ・おいしい物を作らないと売れない時代。栄養価をしっかりと勉強してやるのが良い。肥料設計で変わってくる。
- ・土づくりが十分ではないほ場であれば、ミニ的に先行逃げ切りでいく方法もある。
- ・4月始まりの栽培品目は土がある程度できていればホウレンソウ、F₁種子でもよければニンジンも時期ずれで栽培できるものがある。
- ・夏収穫の軟弱野菜は、葉物ならツルムラサキとか空心菜がかたそう。
- ・育苗は、少量ならハウスの入った所で作ることが可能。

対応	意見を踏まえ葉菜類、果菜類、根菜類を一通り栽培（資料4）
----	------------------------------

6 半分での緑肥栽培の可否

- ・1本のビニールハウスで半分緑肥、半分野菜の栽培は、緑肥を刈った時に虫が野菜に移るので、一旦ビニールをかけて対策して、すぐに耕すとかそういうテクニックが必要だが可能である。

対応	対策を実施して半々の栽培で実習（資料4）
----	----------------------